

# ウメノキゴケを探せ 自然科学クラブ

ぼくたちは、自然や科学に興味をもつ仲間が集まって、自然観察や環境調査などの活動をしているクラブです。

活動は、前期(5~9月)と後期(10~3月)に分かれていて、メンバーも変わります。今は、4~6年生20人が、毎週月曜日(第一月曜日は休み)の5校時に理科室に集まって、石橋先生と宮原先生に教わりながら、校庭わきの自然観察園「杉の子コース」のアオキの実を使った空気銃作りや実験器具を使ったべっこつあめ、スライム、ペット



風あたりはどうか？



先生、ここにもあったよ！

ど、自然や身近なものに目を向けた活動をしています。きょうの活動は、「ウメノキゴケを探そう」。



次はスライム作りに挑戦だ

大気中の水分を吸収して生育するウメノキゴケの生育分布を調べると、大気汚染の広がりがあります。小学校周辺の大気はどうなのか、さっそく校内の調査を開始しました。校庭や「杉の子コース」を調べた結果、樹木や石などに、ウメノキゴケがたくさん見つかりました。公津小学校周辺の大気はまだきれいなままとわ



ウメノキゴケ

かり、ほととしました。



## なかまと一緒に ●●手話は心と心のコミュニケーション

成田手話サークル こばとの会



こんにちは 手話 サークル いっしょに 学ぼう

わたしたち手話サークルは、毎週2回(水曜日は夜に、土曜日は午後)中央公民館で活動しています。手話の学習は、成田市聴覚障害者協会に協力していただき、聴こえない人たちと実際に交流しながら、生きた手話を学んでいます。

会員のみなさんは、初級手話講習会を終えた人や、興味をもち個人的に入会する人など、小学生から社会人まで幅広い年代の人たちです。

手話の学習は初級者の人にも優しく理解できる

よつとでも丁寧で、みんなで楽しく手話を学べる雰囲気であふれています。

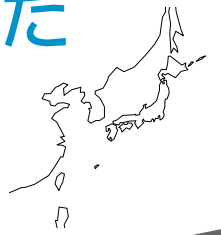
また、手話の技術を勉強するだけでなく、毎月1回の「ミニ講演会」を開催し、聴覚障害者の抱える問題や生活・仕事・子育てなどの話を聞くことで、より理解を深める学習もしています。そのほかボウリング大会・旅行・クリスマスパーティーなどのレクリエーションも行い親ほくを深めています。

今年でサークル創立25周年を迎え、12月に行われる記念講演会に向け忙しい毎日です。



1人ひとりの小さな力が合わさり大きな力に

# みんな同じ色の服を着ていました



小林江莉子さん（玉造）

わたしのふるさと、中国の上海です。日本からジェット機で約3時間。緯度も日本の鹿児島と同じですが、気候もほとんど同じです。今では、超高層ビルが立ち並び時代の先端をゆく都市となっています。

わたしの子どもころは、毛沢東主席の発動した「文化大革命」の真っ只中で、みんな同じ服（人民服）を着ていました。子どもの服は母の手作りでしたが、紺色が深緑色の布地しが販売されていないので、どの服を着ても同じように見えて、着る楽しみはありませんでした。

子どもの遊びに「毬子<sup>マユコ</sup>」があります。バドミントンの羽根のようなものを足で蹴り上げるゲームで、何回続けられるかを競います。羽根は手作り、穴のあいたコインを布で包み、鶏の羽を4枚取り付けて完成で

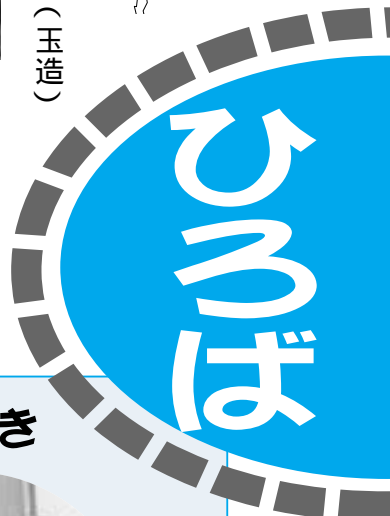


約20年前の上海外海

すが、羽根のバランスで飛び方が変わる、テクニクが必要で、中国では鶏は祝い事するとき食べます。この鶏のきれいな羽根を本の間にはとんで、保存しておくのです。

ふるさとを離れて17年。言葉も生活習慣も違う日本で、笑い話になるような失敗もありましたが、日本語が話せるようになるとたくさんのお友達ができ、毎日が楽しくなりました。成田は緑が多く空気がきれいです。上海では、車の排気ガスが雲のようになびくことがしばしば、子どもたちのためにも、成田のすばらしい環境を残しておきたいですね。

## ふるさとトーク 中国上海



### スクスクのびのび

小澤宏和くん（3歳）玉造

バスや電車に乗るのが大好き。保育園では友達と一緒に、すべり台や砂場で遊ぶんだ。給食はなんでも残さず食べるよ。クリスマスにはイチゴのケーキが食べたいな。



### ペット大好き



斉藤富美子さん（左）  
かおるさん（右）  
マリ（メス・左）・ラブ（メス・右）

マリは14歳になるのんびり屋。ラブは食が細く、飼い始めた頃は心配しましたが今はとても健康です。家の中では仲良くじゃれあっていますよ。



中谷朱羽ちゃん（下福田）

### こんにちは赤ちゃん



堀内萌花ちゃん（十余三）